2019年度 休眠預金活用事業

「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる良質な支援付き住居施設の建設とその住居施設で働くスタッフ等の人材育成」事業　事後評価報告書

【実行団体】特定非営利活動法人ワンファミリー仙台
【資金分配団体】公益財団法人パブリックリソース財団

目次

1. 基本情報・事業概要…… p.3
2. 事後評価実施概要…… p.6
3. 事業の実績…… p.9
4. アウトカムの分析…… p.15
5. 成功要因・課題…… p.21
6. 結論…… p.22
7. 提言…… p.24
8. 知見・教訓…… p.25
9. 資料（別添）…… p.26

2

1．基本情報・事業概要

実行団体	特定非営利活動法人ワンファミリー仙台
事業名	誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる良質な支援付き住居施設の建設とその住居施設で働くスタッフ等の人材育成事業

実施期間：2020年12月～2023年3月　　対象地域：宮城県仙台市

資金分配団体	公益財団法人パブリックリソース財団
事業名	支援付住宅建設・人材育成事業
事業の種類	ソーシャルビジネス形成支援事業

3

1．基本情報・事業概要

概要

宮城県仙台市に、個室15室を備えた日常生活支援住居施設を新築し、支援を提供する。
日常生活支援住居施設で生活支援提供責任者を担うことができる人材を育成する。
日常生活支援住居施設の持続可能な(事業単独で収支が黒字の）ソーシャルビジネスモデルを確立することを目指す。

解決を目指す社会課題

2020年10月から、居宅と入所施設の間の住まいである「日常生活支援住居施設」が制度化された。高齢・障害等により一人暮らしが困難であっても、入所施設に入るほどではない人、心身状態が回復すれば一人暮らしも可能と見込める人が、地域資源を活用しながら暮らせる住まいである。高齢化・核家族化の進む社会において、日常生活上の支援を提供する「日常生活支援住居施設（設備）」および「支援を担う人材」のニーズが高まっている。

支援対象

（直接）一人暮らしが困難な生活困窮者等　（間接）本事業建物の周辺地域の住民

出口戦略

日常生活支援住居施設の持続可能な(事業単独で収支が黒字の）ソーシャルビジネスとして運営及び人材育成を続ける。

4

助成事業

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる良質な支援付き住居施設の建設とその住居施設で働くスタッフ等の人材育成事業

中長期アウトカム

【最終（長期）アウトカム】入居者が生きてて良かったと思える
【中間（中期）アウトカム】入居者が安心して暮らし続けられる

短期アウトカム

【施設や支援者の変化】
（01）生活環境がしっかりした施設（住まい）がある
（02）支援者が入居者を尊重できるようになる
（03）支援者が入居者の相談にのれるようになる
（04）支援者の返答や対応がぶれない

【入所者の変化】
（05）入居者が「世の中色々な人がいるな」と受け入れられる
（06）入居者が我が家と思って生活ができる、心から楽しいと思える時間がもてる
（07）入居者が健康でいられる
（08）入居者に友人・知人ができる
（09）入居者がお金を管理できるようになる
（10）入居者が生きがいをもって生活できるようになる

活動

【施設や支援者を対象にした取組み】
・施設（住まい）をつくる取組み
・支援者養成の取組み
・一貫した支援実施のための取組み

【入居者を対象にした取組み】
・入居者の人間関係構築のための取組み
・入居者の健康維持、生きがいづくりのための取組み
・入居者の金銭管理支援　など

注1）ここでは一部を抜粋しているのみですので、ロジックモデルの詳細は別添資料（p28）をご参照ください。
注2）休眠預金事業として実施された直接的な事業は短期アウトカムの左側（01～04に該当する部分（施設建設と職員研修））になります。これがしっかり行われることで、右側（05～10に該当する部分（入所者支援））が十分に実施されるようになります。

5

2．事後評価　実施概要

(1)実施概要

①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し、評価を実施したのか
ロジックモデル（p4）に規定されたアウトカムを評価した。特に、休眠預金が投入された施設建設や職員養成の直接的な活動に対するアウトカムの達成度合い、その結果実施が可能になった入居者への支援に対するアウトカムの達成度合い、そして中長期アウトカムに規定された「入居者が生きてて良かったと思える」や「入居者が安心して暮らし続けられる」の達成度合いを評価した。

②どんな調査で測定したのか					
評価するアウトカム	（1）調査方法	（2）調査実施時期	（3）調査対象者	（4）分析方法	（5）価値判断の基準
▼長期（最終）アウトカム「入居者が生きてて良かったと思える」	・他記式アンケート調査（問6-5）	・2022年11月26日～27日	・入居者（全数である7名）	・事前事後の平均値を比較	・事前に比べて事後の平均点が向上していること
▼中期（中間）アウトカム「入居者が安心して暮らし続けられる」	・〃（問6-6）	・〃	・〃	・単純集計（度数分布の確認）	・分布が肯定的な回答に寄っていること
▼（01）「生活環境がしっかりした施設（住まい）がある	・〃（問1-2）	・〃	・〃	・〃	・〃
▼（02）「支援者が入居者を尊重できるようになる」	・〃（問2-1, 2-4）	・〃	・〃	・〃	・〃
▼（03）「支援者が入居者の相談にのれるようになる」	・〃（問2-2, 2-3）	・〃	・〃	・〃	・〃

注3）他記式アンケート票の詳細は別添資料（pp30-35）をご参照ください。なお、調査は評価アドバイザーが調査者として実施し、要所要所でインタビューも実施しました。

6

2．事後評価　実施概要

(1)実施概要

評価するアウトカム	（1）調査方法	（2）調査実施時期	（3）調査対象者	（4）分析方法	（5）価値判断の基準
▼（04）「支援者の返答や対応がぶれない」	・他記式アンケート調査（問2-5, 2-6）	・2022年11月26日～27日	・入居者（全数である7名）	・単純集計（度数分布の確認）	・分布が肯定的な回答に寄っていること
▼（05）「入居者が「世の中色々な人がいるな」を受け入れられる	・〃（問3-1～3-3）	・〃	・〃	・事前事後の平均値を比較	・事前に比べて事後の平均点が向上していること
▼（06）「入居者が我が家と思って生活ができる、心から楽しいと思える時間がもてる」	・〃（問3-4～3-6）	・〃	・〃	・〃	・〃
▼（07）入居者が健康でいられる	・〃（問3-10～3-13, 問4-1～4-6）	・〃	・〃	・〃	・〃
▼（08）入居者に友人・知人ができる	・〃（問3-7, 3-8, 3-9）	・〃	・〃	・〃	・〃
▼（09）入居者がお金を管理できるようになる	・〃（問5-1～5-4）	・〃	・〃	・〃	・〃
▼（10）入居者が生きがいをもって生活できるようになる	・〃（問6-1～6-4）	・〃	・〃	・〃	・〃

注3）他記式アンケート票の詳細は別添資料（pp30-35）をご参照ください。なお、調査は評価アドバイザーが調査者として実施し、要所要所でインタビューも実施しました。

7

③調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか
ロジックモデルに規定されたアウトカムの達成度合いと活動の実施状況を対照し、本事業等で実施された活動がアウトカムの達成に貢献したのかを検討した。

(2)実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	ロジックモデル作成、アンケート票作成、報告書執筆	立岡　学	特定非営利活動法人ワンファミリー仙台　理事長
内部	ロジックモデル作成、アンケート票作成、報告書執筆	小林　由美子	特定非営利活動法人ワンファミリー仙台　地域福祉課
内部	ロジックモデル作成、アンケート票作成、報告書執筆	高崎　弥生	特定非営利活動法人ワンファミリー仙台　総務企画課
内部	ロジックモデル作成、アンケート票作成、報告書執筆	堀井　健一	特定非営利活動法人ワンファミリー仙台　総務企画課
外部	ロジックモデル作成、アンケート票作成、報告書執筆	黒木　明日丘	公益財団法人パブリックリソース財団（資金分配団体）PO
外部	ロジックモデル作成、アンケート票作成、報告書執筆	五十嵐　航	公益財団法人パブリックリソース財団（資金分配団体）PO
外部	ロジックモデル作成、アンケート票作成、調査の実施、データ分析、報告書執筆	新藤　健太	日本社会事業大学講師

8

3．事業の実績

3-1　インプット（主要なものを記載）

項目	内容・金額
（1） 人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）	10人 事業統括責任者1人 副統括責任者1人 事業実施責任者2人 実施担当者3人 事務担当者3人
（2） 資機材（主要なもの）	特になし
（3） 経費実績①助成金の合計	（契約当初計画）事業費　52,000,000円　評価経費　1,080,000円
	（実際の投入）事業費　48,653,273円　評価経費　815,797円
経費実績②自己資金	（契約当初計画）47,640,000円
	（実際の投入）35,601,862円
資金調達で工夫した点	日本政策金融公庫から借り入れをおこなった。

9

3-2　活動とアウトプットの実績

主な活動（概要）	アウトプット	指標	初期値	目標値	目標 達成時期	実績値
（01）「生活環境がしっかりした施設（住まい）がある」に関連した活動	①生活環境がしっかりした施設（住まい）がある ②建設した施設（住まい）が十分に利用される	①建設された住まい ②入居者数	なし	①生活環境がしっかりした住まいが1か所建設される ②13人	①2021年12月 ②2023年3月	①1か所の住まい（てらっせ東勝山）が建設された（p11参照） ②12人（p10参照） 【ほぼ達成】
（02～04）のアウトカムに関連する支援者を対象にした活動	①てらっせ東勝山で入居者支援に従事する職員がいる ②さらには職員は適切な支援を行うための十分な知識・スキルを身に着けている	①育成した職員の人数 ②入居者からの評価	なし	①2人 ②入居者から肯定的な評価を得ている	2023年3月	①2人 ②本報告書「4-1.アウトカムの達成度」を参照 【達成】
（05～10）のアウトカムに関連する入居者を対象にした活動	（05）に関連したもの ・買い物支援の頻度、回数など （06）に関連したもの ・や入居者の話を聴く頻度、回数など （07）に関連してもの ・入居者への散歩を促す働きかけの頻度、回数など （08）に関連したもの ・入居者同士で買い物に出かける機会の創出頻度、回数など （09）に関連したもの ・金銭管理支援の頻度、回数など （10）に関連したもの ・福祉サービスのつなぎ支援の頻度、回数など	—	—	—	—	—

注4）休眠預金事業として実施された直接的な事業である短期アウトカム01～04に該当する部分（施設建設と職員研修）を中心に記載しました。

10

3-3　入居者数

2022年

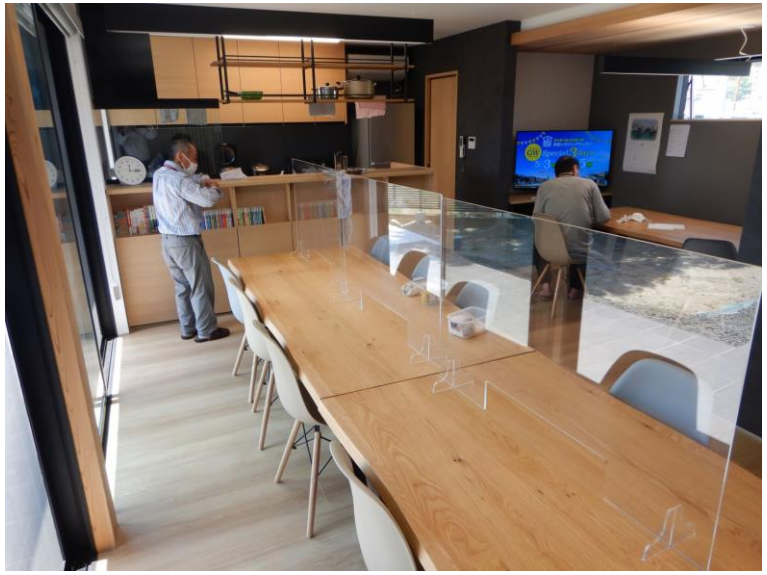
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ー	6人	7人	9人	10人	11人	9人	9人	8人	8人	8人	7人

2023年

1月	2月	3月
10人	11人	12人

11

建物外観



食堂

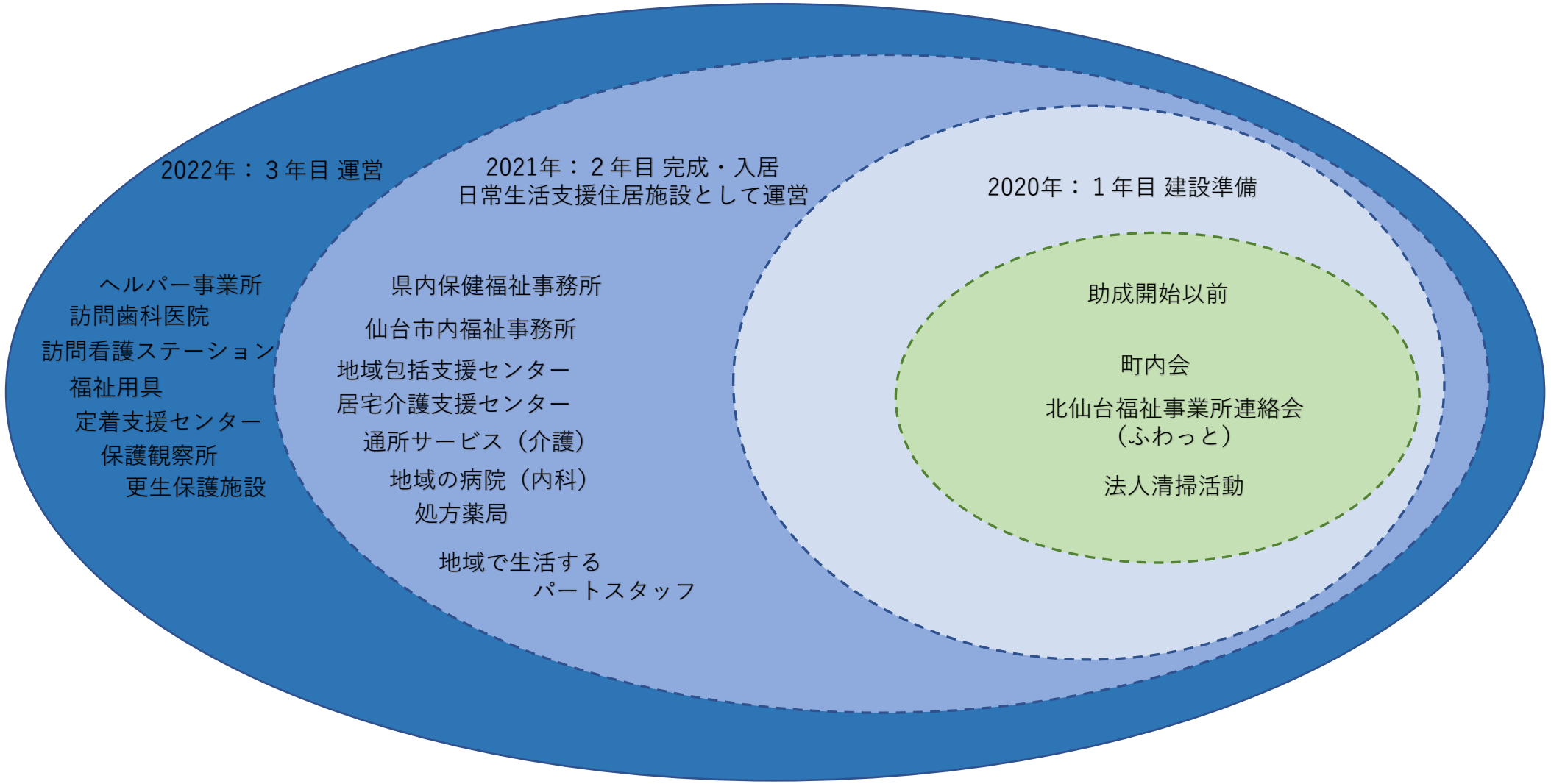
居室

通所リハビリ送り出し

12

3-3　外部との連携の実績

【エコマップ制作概要】
制作者：小林由美子
色分け：助成事業開始以前　緑色 → 1年目 水色 → ２年目 濃い水色 → ３年目 青色



13

【参考ポイント】
・行政、企業、NPO、アカデミアなどステークホルダーとの連携や対話について、どの程度実施し、どのような工夫をしたのか。
・地域参加について、合意形成のプロセス、地域のステークホルダーとの関係構築などはどのように実施したのか。
・包括的な連携やその仕組み作りに際してどのような工夫をしたのか。

外部との連携の実績

・助成開始以前は、月1回の福祉事業所連絡会の清掃活動に単身アパート入居者と一緒に参加したり、週1回の法人清掃活動を行い地域とのつながりをもってきた。当法人理事長が育った地域でもあり、住民の方との繋がりや地域の方たちとの関係性構築に努めてきた。

・2021年：2年目以降は開設・入居者受け入れなどに関して、仙台市、福祉事務所等と情報共有しながら準備を進めてきた。入居が始まってからは、地域の病院に入居者を繋ぎ医療面での協力先を確保した。急な体調不良や生活の中での変化など主治医と共有することで、急な対応が必要になった時の相談先ができ、スタッフの安心にもなっている。また、介護保険サービス利用に必要な医師意見書の協力もお願いをしている。介護保険サービス利用に関して、入居者が必要とする必要な社会資源につなげるために、地域包括支援センター、居宅介護支援センターと情報共有を行い、利用者にあった事業所につないできた。
入居者が安心して生活できるように、常勤スタッフの支援のみならず、同じような年齢・立場で親しみやすい他のアパート入居者のスタッフが支援のサポートに入ることで、いろいろな課題や問題を抱え共同住宅での生活に慣れない利用者にも緊張感を感じないで生活できる環境を作れた。

・2022年：3年目は、地域資源の活用や行政以外の連携が増えた。医療行為が必要となった利用者に関して訪問看護を利用し、緊急時、宿直と訪問看護の連携で対応ができている。当初は、単身生活の中でADLや認知が低下した人、見守りがあれば地域で生活できる人が対象だったが、社会生活や居宅生活の経験が乏しかったり、身寄りがなく住所がない、住まいを見つけられない矯正施設出所者の受け入れが増えてきている。このような対象者にとって、民間賃貸住宅や施設入所はハードルが高く、入居できても環境に馴染めず短期間での退所になる。そのようなことにならないためにも、関係機関と情報を共有し、支援のアドバイスをもらったりできるような協力体制を築けるように努めている。

14

4．アウトカムの分析

4-1　アウトカムの達成度

アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標 達成時期	アウトカム 発現状況（実績）
▼長期（最終）アウトカム「入居者が生きてて良かったと思える」	問6-6. 生きていて良かったと思えるか	入居者の平均点3.57点（5点満点中）	事前と比べて改善していること	2023.3	入居者の平均点4.43点（5点満点中）【達成】
▼中期（中間）アウトカム「入居者が安心して暮らし続けられる」	問6-5. 安心して暮らせているか	入居者の平均点2.71点（5点満点中）	〃	〃	入居者の平均点4.86点（5点満点中）【達成】
▼（01）「生活環境がしっかりした施設（住まい）がある	問1-2. テラッセ東勝山が良い住まいの場と思えるか	なし	多くの入居者から肯定的な回答が得られること	〃	少しはそう思う（2名：28.6%）、とてもそう思う（5名：71.4%）【達成】
▼（02）「支援者が入居者を尊重できるようになる」	問2-1. 支援者は尊重してくれるか 問2-4. 支援者はそっとしておいてくれるか	〃	〃	〃	問2-1：少しはそう思う（2名：28.6%）、とてもそう思う（5名：71.4%） 問2-4：少しはそう思う（3名：42.9%）、とてもそう思う（5名：57.1%）【達成】
▼（03）「支援者が入居者の相談にのれるようになる」	問2-2. 支援者は相談のための時間をつくってくれるか 問2-3. 面談（相談）語はすっきりした気持ちになるか	〃	〃	〃	問2-2：少しはそう思う（2名：33.3%）、とてもそう思う（4名：66.7%） 問2-3：少しはそう思う（1名：16.7%）、とてもそう思う（5名：83.3%）【達成】
▼（04）「支援者の返答や対応がぶれない」	問2-5. 支援者の支援にぶれがないか 問2-6. 支援者の支援に満足しているか	〃	〃	〃	問2-5：少しはそう思う（1名：14.3%）、とてもそう思う（6名：85.7%） 問2-6：どちらともいえない（1名：14.3%）、少しはそう思う（1名：16.7%）、とてもそう思う（5名：71.4%）【達成】

注5）それぞれの詳細な分析結果は別添資料（pp36-43）をご参照ください。

15

4．アウトカムの分析

4-1　アウトカムの達成度

アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標 達成時期	アウトカム 発現状況（実績）
▼（05）「入居者が「世の中色々な人がいるな」を受け入れられる	問3-1. 他者に対して不満に思うことがある 問3-2. 他者とトラブルになることがある 問3-3. トラブルを適切に解決できる	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-1. 2.43点 問3-2. 1.43点 問3-3. 1.5点	事前と比べて改善していること	2023.3	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-1. 1.43点 問3-2. 1点 問3-3. 2点 【達成】
▼（06）「入居者が我が家と思って生活ができる、心から楽しいと思える時間がもてる」	問3-4.ときに誰かにわがまま（自己主張）ができる 問3-5.自室を掃除している（清潔を保っている） 問3-6.家賃を滞納せず、支払えている	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-4. 2.14点 問3-5. 4.2点 問3-6. 4.14点	〃	〃	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-4. 2.14点 問3-5. 4.6点 問3-6. 5点 【達成】
▼（07）入居者が健康でいられる	問3-10.食事は十分に食べれている 問3-11.夜間、十分に眠れている 問3-12.散歩など、適度に外出している 問3-13.通院するなど、体調に気遣っている 問4-1～問4-6.K6	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-10. 3.17点 問3-11. 2.57点 問3-12. 4.17点 問3-13. 3.67点 K6得点9点以上の人数、4人（66.7%）	〃	〃	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-10. 4.83点 問3-11. 4.14点 問3-12. 3.67点 問3-13. 5点 K6得点9点以上の人数、1人（14.3%）【達成】

注5）それぞれの詳細な分析結果は別添資料（pp36-43）をご参照ください。
注6）「（07）入居者が健康でいられる」のアウトカム指標になっている「K6」とは国民生活基礎調査などにも使われている尺度です。うつ病や不安障害などの精神疾患リスクを測定することができ、総合得点は9点以上で高いリスクがあるとされています（具体的な項目内容は別添資料（p32）をご参照ください）。

16

4．アウトカムの分析

4-1　アウトカムの達成度

アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標 達成時期	アウトカム 発現状況（実績）
▼（08）入居者に友人・知人ができる	問3-7. 世間話をするくらいの友人はいる 問3-8. 入居者のなかに友人といえる人がいる 問3-9. 地域に友人（知人）といえる人がいる	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-7. 2.43点 問3-9. 2点	事前と比べて改善していること 問3-8については多くの入居者から肯定的な回答が得られること	2023.3	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問3-7. 3.29点 問3-9. 1.86点 問3-8の回答は次のとおり とてもあてはまる（1名：14.3%）、どちらともいえない（1名：14.3%）、あまりあてはまらない（1名：14.3%）、まったくあてはまらない（4名：57.1%）【未達成】
▼（09）入居者がお金を管理できるようになる	問5-1. 収支が赤字にならないで済んでいる 問5-2. 金銭管理の日まで食べ物が保たれている 問5-3. 欲しいものを買うことができている 問5-4. 他者からお金などを借りている	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問5-1. 2.83点 問5-3. 2.14点 問5-4. 1.57点	事前と比べて改善していること 問5-3については多くの入居者から肯定的な回答が得られること	〃	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問5-1. 4点 問5-3. 3.71点 問5-4. 1.43点 問5-2の回答は次のとおり とてもあてはまる（3名：42.9%）、すこしはあてはまる（1名：14.3%）、まったくあてはまらない（1名：14.3%）、未回答（2名：28.6%）【達成】

注5）それぞれの詳細な分析結果は別添資料（pp36-43）をご参照ください。

17

4．アウトカムの分析

4-1　アウトカムの達成度

アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標 達成時期	アウトカム 発現状況（実績）
▼（10）入居者が生きがいをもって生活できるようになる	問6-1. やってみたいことがある 問6-2. 楽しみがある 問6-3. 趣味がある 問6-4. 日課（日中すべきこと）がある	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問6-1. 2.57点 問6-2. 1.71点 問6-3. 1.43点 問6-4. 2.29点	事前と比べて改善していること	2023.3	入居者の平均点は次のとおり（5点満点中） 問6-1. 2.43点 問6-2. 3.71点 問6-3. 2点 問6-4. 3点【達成】

注5）それぞれの詳細な分析結果は別添資料（pp36-43）をご参照ください。

18

(2)アウトカム達成度についての評価

✓ ←このチェックマークを該当の□の上に置いてください

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
☑ 短期アウトカムの目標値を上回って達成できている □ 短期アウトカムの目標値が達成できている □ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている □ 短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	・ロジックモデルに規定した短期アウトカム（1）～（10）のほぼ全てにおいて目標値を達成することができた。また、別添資料にもあるように。入居者から「職員さんに大切にして貰っている」という語りを得ることもできている。 ・また、短期アウトカムにとどまらず、中長期アウトカムに設定した「入所者が安心して暮らせること」、「生きてて良かったと思えること」についても十分な達成がみられた。 ・本事業のアウトカム達成度は左記のように評価した。

4-2　波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

――対象とする地域や分野を超えて、同様の手法による取組は波及しそうか

【生まれている波及効果（想定外、波及的・副次的効果）】
・職員全員でロジックモデルを作ったことで、各職員が日々の活動の意義（それがどのように短期・中長期の目標達成につながっていくか）を実感できるようになった。 ・ソーシャルビジネスとして成り立たせることを目指し、資金分配団体との月次ミーティングや資金調達アドバイザーとのミーティングの機会を得た結果、職員の関心が対象者への支援だけでなく、入居率や、委託事務費の加算の仕組みなど、収支や経営といった方面にも拡大した。 ・本事業開始前に先に運営をしていた施設では、委託元の福祉事務所は多いときでも2か所に限られていたが、本事業で新たな入居者を受け入れることを継続した結果、委託を経験した福祉事務所は7か所まで拡大し、行政職員のあいだで制度への理解が深まった。

19

4-3　事業の効率性（支出の状況：適切に予算が使われたか）

【事業の効率性をはかるために行った取り組み】

・本事業は自法人で建物を新設する計画であったため休眠預金事業から施設整備費として助成金約4,800万円を得ることに加えて、自己資金として3,700万円の借入を行っている。こうした状況下で開始する本事業は一定の採算性を確保し、持続できる運営の方法を見出すことが求められた。そこで、資金分配団体から資金調達アドバイザーの伴走支援を受け、借入には公庫「コロナ対策資金」の利用も決定した。この「コロナ対策資金」は、当初3年間は利子補給により実質無利息であるのに加えて無担保であることから、招待追加借り入れが必要となった場合でも施設不動産を担保提供することによって円滑な資金調達が可能となる可能性が高く、本事業の持続可能性を高めることにつながったと考えられる。

・こうして建設された施設（住まい）は、本報告書p10に示したように増減がありながらも入居者数を増やし2023年3月時点では12人の方にご利用いただいている。病気や様々な理由で退所される方もいるので、延べ人数では20人の方がすでに本事業（施設）を利用したことになる。建設された施設（住まい）があることで今後も継続的に入居者の受け入れ（入居者に対する支援）が可能であること、そして本報告書の「４．アウトカムの分析」の示したような影響を入居者に与え続けられることを考えれば、本事業に投入された事業費は最大限有効に、効率的に活用できたものと自己評価する。

20

5．成功要因・課題

事業で達成した成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについてその要因や課題を記載してください。

アウトカム

（長期（最終）アウトカム）入所者が生きてて良かったと思える
（中期（中間）アウトカム）入所者が安心して暮らし続けられる
（01）生活環境がしっかりした施設（住まい）がある
（02）支援者が入居者を尊重できるようになる
（03）支援者が入居者の相談にのれるようになる
（04）支援者の返答や対応がぶれない

（08）入居者に友人・知人ができる

社会課題解決に貢献したアウトカム	達成が困難であったアウトカム
・本事業の直接的な事業は施設建設と職員研修であったため、まずは、これらの直接的なアウトカムである（01）～（04）を挙げたい。これらが十分な達成水準に到達できた要因として、専門家の助言を受けながら入居者にとって十分な施設（住まい）が建設できたこと、そして本法人においては支援者を対象にした研修等を丁寧に実施していることが挙げられる（活動の詳細は別添のロジックモデルを参照頂きたい）。 ・また、短期アウトカムにとどまらず本事業の中長期アウトカムの達成度合いもおおむね十分なものであった。ロジックモデルにあるように、中長期アウトカムである「安心した暮らし」や「生きてて良かったと思える生活」を達成するためにはしっかりした住まい（01）、力量ある支援者（01～04）、そして入居者が抱える諸課題の解決（05～10）が必要であり、本事業ではこれらがおおむね達成できたと自己評価する。	・ロジックモデルに規定されたいくつかのアウトカムのなかで唯一十分な達成度合いに到達できなかったアウトカムが「（03）入居者に友人・知人ができる」であった。ロジックモデル上では、このアウトカムを達成するために、「複数人の入居者同士で食事や買い物に行く（これを通してお互いを知る）」や「公園への外出や散歩時に、近所の方々と話してみる」を規定している。 ・しかし、こうした支援を実践するためには多くの人手（支援者）が必要になる。現在でも5:1（入居者：支援者）という手厚い体制で日々の支援を提供しているが、夜勤を含めたシフト勤務であることを考えれば、支援者が十分な人数配置されているとは言い難く、こうした上記のような機会を創出することは簡単ではない。また、未だ終息しないコロナウイルス感染症下において一緒に食事をする行為や外出に対して慎重にならざるを得ない状況も続いている。 ・こうした状況が「（03）入居者に友人・知人ができる」というアウトカム達成に少なくない影響を与えたものと考察する。

21

6．結論

補足説明

本事業における「3．事業の実績」及び「4．アウトカムの分析」を振り返り、それぞれの達成度合いを評価する。

6-1　事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

※（1）、（2）それぞれ1箇所を選択して〇をつける。

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス				〇	
（2）事業成果の達成度					〇

上記を選択した理由

（1）事業実施のプロセスについては、本報告書「3-2. 活動とアウトプットの実績」にあるように、入居者数が目標人数に達しなかった（1名不足）という状況はあるものの、その他については十分な達成度合いにあることから「想定した水準にある」と自己評価した。
（2）事業成果の達成度については、本報告書「4．アウトカムの分析」にあるように「（08）入居者に友人・知人ができる」のみが未達成ではあったものの、その他の短期アウトカムは十分な達成度合いにあったこと、加えて中長期アウトカムも十分な達成度合いであったことから「想定した水準以上ある」と自己評価した。

22

6-2　事業実施の妥当性

事業実施の妥当性について、「課題やニーズの適切性」「課題やニーズに対する事業設計の整合性」「実施状況の適切性」「成果の達成状況」 のすべてを振り返り、重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として自由記載してください。

【課題やニーズの適切性】
　本事業は、暮らしの場として居宅か施設かの二者択一を迫られる現状を解決すべき課題として設定し、これを2021年1月に実施した事前評価にて検証した。その結果、施設ほど手厚い支援は必要ないが独居は難しいというかたが住み慣れた地域で暮らし続けるにあたって日常生活支援住居施設のニーズがあると判断したため、事前評価において、本事業の課題設定は妥当であると評価した。

【課題やニーズに対する事業設計の整合性】
　また、こうして設定された課題を解決するために「てらっせ東勝山」という日常生活支援住居施設（住まい）を建設し、ここで入居者支援に従事する支援者を養成した。加えて、どのような実践をし、何を達成すべきかについてロジックモデルを作成し、明らかにした（p28参照）。
　このロジックモデルは本法人に勤務する多くの支援者が参加したワークショップにて作成したもので、作成の過程には資金分配団体のPOや評価アドバイザーの関与も得て、論理の飛躍がないかを確認した。
　以上のことから、本事業における事業設計（ロジックモデル）の整合性も一定程度十分なものであったと評価した。

【実施状況の適切性】及び【成果の達成状況】
　これらについては、本報告書に前述したとおりである。いずれも十分な達成度合いであったと評価した。

【事業実施の妥当性（総合評価）】
　以上、休眠預金等活用事業における社会的インパクト評価で規定されている「課題やニーズの適切性（ニーズの分析）」、「課題やニーズに対する事業設計の整合性（事業設計の分析）」、「実施状況の適切性（実施状況の分析）」、「成果の達成状況（アウトカムの分析）」という評価視点を総合的に振り返り、本事業はの実施は十分に妥当なものであったと自己評価する。

23

7．提言

評価結果に基づき事業を継続していく上で、役立つ提案・助言を記載してください。
本事業をどのように持続・発展させるか、休眠預金に依存せずに自走化させる戦略とその実施状況等を記載してください。

本事後評価結果で示したように「生活環境がしっかりした施設（住まい）」があり、十分な知識・スキルを身に着けた職員による支援が、ここで生活する入居者の様々な良い変化（アウトカムの達成）につながることから、今後のより効果的な取組みの推進、制度改正に向けて以下４点を提言したい。

１．日常生活支援住居施設の制度において、支援の対価としては公的資金が給付される仕組みになったが、開設するための初期費用や、経年による損耗の修繕費用といった部分には公的給付がないし、利用者から敷金礼金等を取ることは許されていない。日常生活支援住居施設が全国のどの地域でも運営され、支援を必要とされる方が利用できるようになるためには、支援の対価以外にも公的給付が必要である。

２．日常生活支援住居施設に求められる機能を果たすためには、知識や経験を積んだ職員を十分な数で配置する必要があり、そのためには職員の待遇向上は必須である。職員の待遇向上と、それによる職員の確保・定着をはかるには現状の委託事務費単価では不足しているので、単価を引き上げていただきたい。

３．重点的要支援者の6類型（ア～カ）のうち、ア～オは何らかの社会保障制度を利用しているかただけが該当するため、「日常生活支援支援を必要としていながら、まだ社会保障制度につながることができていない」という、いわば最も重点的に支援を要するかたは「該当しない」という矛盾を生んでいる。どんなかたも、日常生活支援住居施設で受け入れて支援し社会保障制度につながるまでの最初の6か月程度は、手厚い支援を必要とするので、入所から最初の6か月程度はどんなかたも重点的要支援者の（カ）としていただきたい。

４．日常生活支援住居施設は、制度ができて日が浅いことから、実態は福祉的・公益的な事業であるにもかかわらず、既存の事業枠組みしか対象として想定されていない公的融資、税の減免、サービス利用申し込みといった場面で「対象外」とされてしまう。日常生活支援住居施設を普及し、社会保障制度全体のなかでの地位を獲得していく必要がある。

24

8．知見・教訓

事業の経験や学びから類似課題への取組みに参考とできる具体的な教訓を記載してください。

本事業をはじめとする休眠預金等活用事業では、社会的インパクト評価を行うことが義務付けられている。このこと等を踏まえた本事業3年間の経験から、次の2点の教訓を得た。
これらの点は今後、別事業を展開するうえでも生かし得る重要な観点であったと考える。

１．課題解決型の事業に取り組む際には、ロジックモデルを作成することで目標と活動が整理され、効率的にリソースを投入できる。また、ロジックモデルが示されると、事業に取り組むメンバーだけでなく、法人内の他部署や、法人外のかたにも事業内容が理解してもらいやすくなり、助言や融資や寄付といった協力を受けやすくなる。

２．収支状況を把握する手法として、予算と実績を比較して見ていく「予実管理」を用いることができる。

25

9．資料（別添）

補足説明

1．日常生活支援住居施設パンフレット（p27）
2．ロジックモデル（p29）
3．アンケート調査依頼文章（p30）
4．アンケート調査票（p31）
5．アンケート調査の結果：パワーポイント版（p37）

26

■ 生活支援の内容

◤個別支援計画の作成◢

生活支援提供責任者と利用者が話し合いを重ねて作成します。個別支援計画が完成したら、再度利用者に内容を説明し、本人同意を確認の上、写しを福祉事務所に提出します。

◤社会制度の活用◢

生活保護・年金・介護保険・障害者手帳等、利用者に必要な申請のサポートを行います。また、住民票の移動等日常生活に関わる手続きの支援も実施します。

◤ 生 活 支 援 ◢

利用者の状況に応じて、病院や買い物への同行支援、服薬・健康・金銭の管理、介護サービスや障害者サービスの利用調整、衛生や家事に関する支援を行います。

◤ 年 間 行 事 ◢

定期ミーティング（毎週金曜日）、食事会（毎週金曜日）、大掃除、防災訓練、消防訓練（AED や消火器の使い方講習）を実施しています。

デイサービスに出発する利用者の送り出し

AED 講習

毎週金曜日の食事会

大掃除

◆ 法人沿革

平成 14 年	2 月	・毎週 1 回、路上生活者への支援をするために夜回り活動を開始。
	4 月	・「朝食を得ることで一日の生命線が保たれる」という多くの声に応え、仙台市中心街で清掃ボランティア活動を開始。（現在の 530 活動）
平成 18 年	4 月	・第二種社会福祉事業（無料低額宿泊所）の届出を行い、住居支援事業を開始。
	7 月	・NPO 法人格を取得し、特定非営利活動法人ワンファミリー仙台となる。
平成 21 年	2 月	・反貧困みやぎネットワークと連携し、仙台市初の民間シェルターを開設。
平成 22 年	2 月	・宮城県からの委託を受け、宮城県地域生活定着支援センターを開所。
	12 月	・身寄りのない施設入居者のためのお墓「一家族の墓」を建立。 ・生活困窮者のワンストップサービスを提供する伴走型絆構築センターと、サロン・ド・アンファミーユを開設。
平成 23 年	3 月	・11 日に発生した東日本大震災の被災 3 県（宮城県、岩手県、福島県）で被災者支援活動を開始。 ・一般社団法人パーソナルサポートセンターとの連携による被災者支援（仮設住宅見守り事業）を開始。
	4 月	・仙台保護観察所からの委託を受け、自立準備ホーム事業を開始。
平成 28 年	12 月	・障がい者支援事業として、グループホームワンファミリーと相談支援事業所ワンファミリーを開所。
平成 29 年	8 月	・仙台市青葉区より委託を受け、荒巻地域の福祉向上のため、荒巻包括ケアシステムモデル事業構築補助業務を開始。
平成 30 年	8 月	・住宅確保要配慮者への支援を目的として、単身生活が困難な困窮者等を受け入れ日常生活支援を行う、共同居住型住居施設「愛子ハウス」の運営を開始。
	11 月	・宮城県より居住支援法人の指定を受ける。
令和 2 年	7 月	・仙台市からの委託を受け、仙台市生活困窮者等住まいの確保緊急支援事業を開始。
	10 月	・愛子ハウスが、東北初の日常生活支援住居施設の認定を受ける。
令和 4 年	2 月	・日常生活支援住居施設てらっせ東勝山を開設。

特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台

〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町 4-26
リバティーハイツ二日町 102
Tel 022-398-9854 Fax 022-398-9856
URL https://www.onefamily-sendai.jp

○ご寄付のお願い

困窮者の生活支援や被災地での支援に使わせて頂けるご寄付や、食料品・家電製品などのご提供を募っています。
ご協力頂ける方は、ぜひ上記連絡先までご連絡下さい。

暮らしに大切なのは “安心”と“その人らしさ”

NPO法人 ワンファミリー仙台 One family Sendai

■ 日常生活支援住居施設とは

日常生活支援住居施設は、生活保護受給者に対する日常生活上の支援を行う施設として、都道府県知事（仙台市の場合は仙台市長）が認定した施設です。

ご本人の希望に加え、福祉事務所が、心身の状況や生活歴、家族との関係性、自立した生活を送る上で解決すべき課題、利用可能な社会資源や制度等を踏まえ、日常生活支援住居施設で支援を受けながら生活することが必要であると総合的に判断した方が利用対象です。

利用者に対して、生活の場の供与と、生活課題に関する相談対応、家事に関する支援、健康や金銭の管理、社会との交流に関するサポート、関係機関との連絡調整や行政手続きに関する支援等、利用者の状況に応じて日常生活を営むのに必要な支援を行います。

玄関側から見た建物

リビング・ダイニング

中庭側から見た建物

一時生活支援施設

ワンファミリー仙台では、住まいを失った方のためにシェルター（ 一時生活支援施設 ）を運営しています。

一時生活支援事業は、住居がなく所得が一定水準以下の生活困窮者に対して、宿泊場所の供与と食事の提供、衣類その他の日常生活を営むのに必要な物資を貸与又は提供するものです。

身寄りがなく行き場のない人、DV や離職によって住むところを失い頼るところもない人、路上・車中・インターネットカフェなどで不安定な生活をしている人が、シェルターを活用し、自分と向き合いながらスタッフや自立相談支援員とともに生活再建を目指します。

一時生活支援事業の支援実施期間は原則3ヶ月としていますが、都道府県等が必要と認める場合、一人ひとりのアセスメントの状況により6ヶ月まで延長が可能となっています。

シェルターは、安定した住まいを確保するまでの一時的な居場所です。まずは、心身ともに疲れを癒してもらい、心と体の準備が整ったら、関係する支援機関も交えて、これからの生活について一緒に考えていきます。

相談受付

シェルター内の設備の使い方を説明

生活の場を失った人の生命を守り、暮らしを立て直す

社会福祉住居施設

ワンファミリー仙台は、仙台市内で単身生活型の社会福祉住居施設を運営し、住宅の確保に特に配慮を要する方に対して、安心・安全な住まいの提供と見守り及び生活全般のサポートを行っています。

社会福祉住居施設は、日常生活または社会生活を送る上で何らかの課題を抱え、一人では生活が難しい方が入居の対象となります。

生活支援担当者は、入居者の状況に応じた日々のくらしのサポート（生活課題に関する相談対応、日常生活に係る支援、健康管理、社会との交流、これから先の生活設計の相談、関係機関との連絡調整、その他）をしながら、入居者らしい自立した生活を営むことができるよう伴走型の支援をします。

近年、「多様性や個を大事にする時代」などと言われるようになりました。「地域共生社会」というキーワードも、よく耳にします。

「個」を大事にする時代だからこそ、「個」と向き合う支援を……ワンファミリー仙台の社会福祉住居施設は、訪問・同行支援・来所面談・電話相談及び緊急時 / 災害時対応その他の支援活動を通して、入居者と向き合い、その「個」を尊重しながら、その人らしいライフステージの実現を目指します。

訪問面談

居室内面談

調理学習・生活講座

「個」と向き合い、その人らしい生活の実現を目指して

日常生活支援住居施設

日常生活または社会生活を送る上で何らかの課題を有し、単身生活が難しい方を対象に、住まいを提供するとともに、その人の状況に応じた支援プランに沿った支援を提供するのが日常生活支援住居施設です。

現在、ワンファミリー仙台では、仙台市内で２ヶ所の日常生活支援住居施設を運営しています。両施設とも、支援員が２４時間常駐する体制で、入居者の困りごとや急なトラブルに柔軟に対応しながら、入居者が安心して生活できる生活環境作りを進めています。

具体的には、面談による生活状況のヒアリング、生活課題に関する相談、家事等に関する支援、服薬等の健康管理支援、社会資源や制度活用に関する手続き等の支援、社会との交流の機会の創出及び関係機関との連絡調整等、入居者の状況に応じた情報提供・助言・支援を行っています。

独り暮らしが困難な人にとって、この施設が安心してその人らしく暮らせる場となるよう、一人ひとりに寄り添った支援を心がけています。

食事準備

面談

いつも誰かがいてくれる、安心・安全の共同居住施設

地域や社会と繋がる活動

●クリーンボランティア５３０活動

ワンファミリー仙台では、路上生活者等に参加を募り、平成 14 年 4 月から仙台駅前～繁華街のゴミ拾いを続けています。この活動は、現在二日町事務所やシェルターの周辺地区にも拡大して実施しています。いわば、ワンファミリー仙台の原点とも言える活動です。

路上生活者からの「朝食があれば一日の生命が保たれる」という声に応え、参加者には毎回軽食や生活用品等をお渡ししています。

社会とのつながりが切れてしまった路上生活者に「自分が世の中の役に立っている」と実感してもらい、それが社会復帰の一歩になればという思いで始まったこの活動は、令和３年８月 11 日に 1000 回を迎えました。

●グループホーム・相談支援事業所

ワンファミリー仙台は、平成 28 年 12 月からグループホームと相談支援事業所を運営しています。

ワンファミリー仙台のグループホームは全室アパートタイプ。プライバシーが守られた住まいで必要なサポートを受けながら、その人らしい自立した日常生活・社会生活の実現を目指します。

相談支援事業は、障がいのある方やその家族から相談を受け、福祉サービスに関する手続きのサポートや、様々な情報提供及び助言を行う相談窓口です。必要な方に必要な支援を提供し、地域でいきいきと生活できるよう、日々相談対応を実践しています。

530 活動　第 1000 回の記念写真

530 活動

面談

事務所

繋がることで見つかる生きがいやその人らしさ

最終（長期）アウトカム

入所者が生きてて良かったと思える

中間（中期）アウトカム

入所者が安心して暮らし続けられる

※01～04は施設環境・支援者に対する働きかけ（環境整備や支援者養成）、05～10は入居者に対する働きかけ（入居者支援）

直接アウトカム

【日住（住まい）をつくる取組み】	【支援者養成の取組み①】	【支援者養成の取組み②】	【一貫した支援のための取組み】	【多様性理解の取組み】	【居場所（我が家）づくりの取組み】	【健康の維持・増進のための取組み】	【友達づくりの取組み】	【金銭管理支援】	【生きがい支援】
（01）生活環境がしっかりした施設（住まい）がある	（02）支援者が入居者を尊重できるようになる	（03）支援者が入居者の相談にのれるようになる	（04）支援者の返答や対応がぶれない	（05）入居者が「世の中色々な人がいるな」と受け入れられる	（06）入居者が我が家と思って生活ができる、心から楽しいと思える時間がもてる	（07）入居者が健康でいられる	（08）入居者に友人・知人ができる	（09）入居者がお金を管理できるようになる	（10）入居者が生きがいをもって生活できるようになる
活動									
・季節を感じられる中庭を設ける ・皆（他者）と過ごせる時間、一人でいられる時間の両方をもてるスペースを設ける ・使い勝手の良い設備を設ける	・採用直後の新任研修の実施 ・倫理教育の実施（ワンファミリー仙台の支援の在り方カードを配布する） ・内部研修の実施（障害者対応など） ・外部講師を招いた研修の実施 ・入居者に興味を持つよう促す（ファイルの閲覧を促す）	・内部研修の実施（傾聴のロールプレイ、アンガーマネジメントなど） ・（支援者に対して）面談中の自分をよく観察するよう促す ・入居者を好きになる、愛を持って接することの大切さを確認し合う ・（支援者が）自分自身に心の余裕を持つよう、促す	・（支援者間で）一貫した対応を確認しておく ・情報共有をする（勤務引継ぎの時間など） ・日ごろから支援者同士がよく話し合うようにする ・マニュアル化できるものはマニュアル化しておく	・複数人の入居同士で食事や買い物などに行く（これを通してお互いを知る） ・宿直のときなどに入居者の話を傾聴する ・様々な主張や訴えに対して、必要に応じて助言を行う	・施設内で見かけたときは必ず一声かけるようにする ・おしゃべりをする ・たまにはそっとしておく ・入居者の体調不良時に親切・丁寧に対応を心掛ける ・施設の自主的な清掃を促す　など	・入居者の健康な食生活を支援する（栄養面を気を付けた食事会の実施など） ・入居者に散歩を促す ・入居者と一緒に買い物に出かける	・複数人の入居同士で食事や買い物などに行く（これを通してお互いを知る） ・公園への外出や散歩時に、近所の方々と話してみる	・必要な金額（金銭のやりくり）を一緒に考える・買い物時のレシートを手元に残しておくように話す ・家計簿（出納帳）をつけるよう促す ・やりくりできる自分へ向けて動機付けする（できていることはしっかりとフィードバックする）	・（介護など）必要なサービスを調整する ・お願いできることはお願いする（お願いしたことは信頼して任せる）

令和4年11月13日

テラッセ東勝山にお住まいの皆様

公益財団法人パブリックリソース財団
黒木明日丘・五十嵐航
日本社会事業大学社会福祉学部
新藤健太

インタビュー調査ご協力のおねがい

時下、ますますご清祥のこととおよろこび申し上げます。

このたび、テラッセ東勝山はお住まいの皆様にとってどのような場であるのか、テラッセ東勝山での暮らしは皆様にどのような影響を与えているのか、などを明らかにすることを目的に次の調査を実施させていただきたく思います。

皆様のお役に立つ調査にしたいと思っていますので、ご協力をいただけましたら幸いです。

1. 調査の時期

①令和4年11月26日（土）10時～14時の間
②令和4年11月27日（日）10時～17時の間

※おひとり様、おおよそ30分程度の調査です。①もしくは②のどちらかでご協力いただけましたら幸いです。

2. 調査の方法

・インタビュー調査（調査員数名がご訪問し、別紙のアンケートにもとづいて、あなたの想いや状況を直接お聞きする調査です）

3. 調査の内容

・テラッセ東勝山での暮らしについて
・地域での生活（楽しみなど）について
・金銭管理など、お金のことについて
・あなたご自身のことについて　　など

※答えづらい質問は無理にはお聞きしませんのでご安心ください。

4. 調査協力のお礼

・調査にご協力いただけた皆様には、少額で申し訳ないのですが、1000円分のクオカードをお渡しさせていただきます。

★是非、調査へのご協力をお願い申し上げます。

テラッセ東勝山入居者様アンケート

【アンケートの目的】

・このアンケートは、入居者の皆様の現在の生活状況についてお聞きし、テラッセ東勝山での支援をより良くしていくことを目的としています。

・アンケートへの回答は自由です(ご協力いただける方のみご回答ください)。

★まずは、あなたのテラッセ東勝山での生活についておうかがいします。

問 1-1. あなたがテラッセ東勝山に入居したのはいつ頃ですか？

年　　月頃

問 1-2. あなたはテラッセ東勝山が良い住まいの場であると思えますか？(気に入っていますか？)次のなかからあてはまるもの 1 つに○をつけてください。

1) とてもそう思う　2) 少しはそう思う　3) どちらともいえない　4) あまりそう思わない
5) 全くそう思わない

★次に、テラッセ東勝山での支援についておうかがいします。

※それぞれの質問について、それぞれあてはまるもの 1 つに○をつけてください。	とてもそうおもう	すこしはそうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	全くそうおもわない
問 2-1. 支援者(職員)はあなたのことを尊重してくれている	1	2	3	4	5
問 2-2. あなたが話したい(相談したい)ときに、支援者(職員)は時間をつくってくれる	1	2	3	4	5
問 2-3. 支援者(職員)への面談(相談)後はたいてい、すっきりした気持ちになる(笑顔でいられる)	1	2	3	4	5
問 2-4. 支援者(職員)はそっとしておいてほしいときはそうしてくれる	1	2	3	4	5
問 2-5. 支援者(職員)の支援(対応)はぶれがなく、いっかんしている(人によって対応が違うということはほぼない)	1	2	3	4	5
問 2-6. 支援者(職員)の支援に満足している	1	2	3	4	5

★次に、あなたの生活状況や友人関係、健康状態についておうかがいします。

※それぞれの質問について、テラッセ東勝山入居前（左側の回答らん）と、現在（いまの状況）（右側の回答らん）の両方に回答してください。 ※それぞれあてはまるもの１つに○をつけてください。	テラッセ東勝山入居前					現在（いまの状況）				
	まったくあてはまらなかった	あまりあてはまらなかった	どちらともいえなかった	すこしはあてはまった	とてもあてはまった	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともえいない	すこしはあてはまる	とてもあてはまる
生活状況について										
問 3-1. 他者に対して不満に思うことがある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-2. 他者とトラブルになることがある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-3. トラブルがあったとき、それを適切に解決できる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-4. ときには誰かにわがまま（自己主張）ができる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-5. 自室を掃除している（清潔を保っている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-6. 家賃を滞納せず、支払えている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
友人関係について										
問 3-7. 世間話をするくらいの友人はいる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-8. 入居者のなかに友人といえる人がいる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-9. 地域に友人（知人）といえる人がいる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
健康状態について										
問 3-10. 食事は十分に食べれている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-11. 夜間、十分に眠れている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

※それぞれの質問について、テラッセ東勝山入居前（左側の回答らん）と、現在（いまの状況）（右側の回答らん）の両方に回答してください。 ※それぞれあてはまるもの１つに○をつけてください。	テラッセ東勝山入居前					現在（いまの状況）				
	まったくあてはまらなかった	あまりあてはまらなかった	どちらともいえなかった	すこしはあてはまった	とてもあてはまった	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともえいない	すこしはあてはまる	とてもあてはまる
問 3-12. 散歩など、適度に外出している	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 3-13. 体調が悪ければ通院するなど体調を気づかっている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

★次に、あなたの精神的な健康状態についておうかがいします（K6日本語版を使用しています）。

※それぞれの質問について、テラッセ東勝山入居前（左側の回答らん）と、現在（いまの状況）（右側の回答らん）の両方に回答してください。※それぞれあてはまるもの１つに○をつけてください。	テラッセ東勝山入居前					現在（いまの状況）				
	まったくなかった	すこしだけあった	ときどきあった	たいていあった	いつもあった	まったくない	すこしだけある	ときどきある	たいていある	いるもある
問 4-1. 神経過敏に感じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 4-2. 絶望的だと感じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 4-3. そわそわ、落ち着きがなく感じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 4-4. 気分が沈んで、何が起こっても気が晴れないように感じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 4-5. 何をするのも骨折りだと感じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 4-6. 自分は価値がない人間だと感じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

※K6 は国民生活基礎調査などにも使用されている、信頼性・妥当性が確認された尺度です。主に、うつ病や不安障害などの精神疾患リスクを測定します。

★次に、あなたの金銭管理(お金の使い方)の状況についておうかがいします。

※それぞれの質問について、テラッセ東勝山入居前(左側の回答らん)と、現在(いまの状況)(右側の回答らん)の両方に回答してください。 ※それぞれあてはまるもの 1 つに○をつけてください。	テラッセ東勝山入居前					現在(いまの状況)				
	まったくあてはまらなかった	あまりあてはまらなかった	どちらともいえなかった	すこしはあてはまった	とてもあてはまった	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	すこしはあてはまる	とてもあてはまる
問 5-1. 収支が赤字にならないで済んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 5-2. 金銭管理の日まで食べ物が保たれている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 5-3. 欲しいものを買うことができている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 5-4. 他者からお金などを借りている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

★次に、あなたのいきがいなどについておうかがいします。

※それぞれの質問について、テラッセ東勝山入居前(左側の回答らん)と、現在(いまの状況)(右側の回答らん)の両方に回答してください。 ※それぞれあてはまるもの 1 つに○をつけてください。	テラッセ東勝山入居前					現在(いまの状況)				
	まったくあてはまらなかった	あまりあてはまらなかった	どちらともいえなかった	すこしはあてはまった	とてもあてはまった	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	すこしはあてはまる	とてもあてはまる
問 6-1. やってみたいことがある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 6-2. 楽しみがある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 6-3. 趣味がある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 6-4. 日課(日中すべきこと)がある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

※それぞれの質問について、テラッセ東勝山入居前（左側の回答らん）と、現在（いまの状況）（右側の回答らん）の両方に回答してください。 ※それぞれあてはまるもの 1 つに○をつけてください。	テラッセ東勝山入居前					現在（いまの状況）				
	まったくあてはまらなかった	あまりあてはまらなかった	どちらともいえなかった	すこしはあてはまった	とてもあてはまった	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともえいない	すこしはあてはまる	とてもあてはまる
問 6-5. 安心して暮らせている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
問 6-6 生きていて良かったと思える	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

★最後にあなた自身のことについておうかがいします（この部分は職員さんから聞き取り）。

問 7. あなたの年齢について、次のなかからあてはまるもの 1 つに○をつけてください。

1) 20代　2) 30代　3) 40代　4) 50代　5) 60代　6) 70代　7) 80代以上

問 8. あなたの性別について、次のなかからあてはまるもの 1 つに○をつけてください。

1) 男性　2) 女性

問 9. ご家族等はいらっしゃいますか？

1) いる　2) いない

問 10. あなたの措置元はテラッセ東勝山がある地域と同じでしょうか。

1) 同じ　2) 違う

問 11. 問 9 で「2) 違う」と回答した方にお聞きします。あなたの措置元はどちらの地域でしょうか。

問 11. あなたご自身は次のなかで当てはまるものがあるでしょうか。あてはまるもの全てに○をつけてください

1) 介護保険法の要支援者または要介護者　2) 障害者（身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳のうちいずれかの交付を受けている者）　3) 精神科病院から退院した者（退院から 3年以内）　4) 精神疾患により継続的に通院している者（自立支援医療費の支給認定を受けている者）　5) 刑余者（矯正施設若しくは更生保護施設の退所等から3年以内）
6) その他これらと同等の支援が必要な者（保護の実施機関が認めた者）

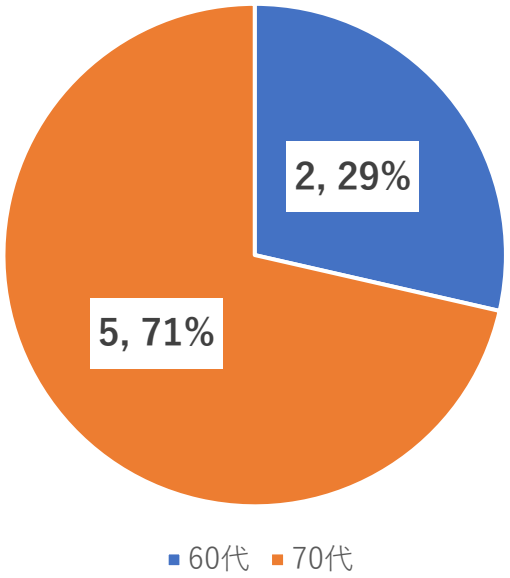
問 12. テラッセ東勝山以外に利用しているサービスはありますか？次のなかからあてはまるもの全てに○をつけてください。

1) 生活保護　2) 生活困窮者自立支援制度（自立相談支援事業・住居確保給付金など）
3) 障害者総合支援法に基づくサービス　4) 介護保険法に基づくサービス
6) その他（　　）

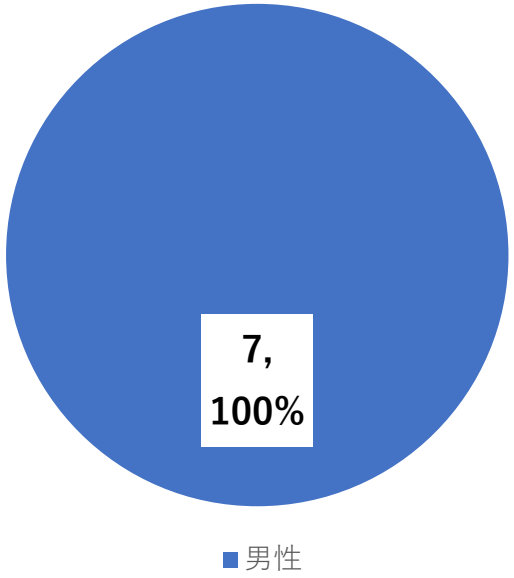
★★これでアンケートはおわりになります。ご協力、ありがとうございました★★

資料．アンケートデータの集計・分析結果（入居者の基本情報）

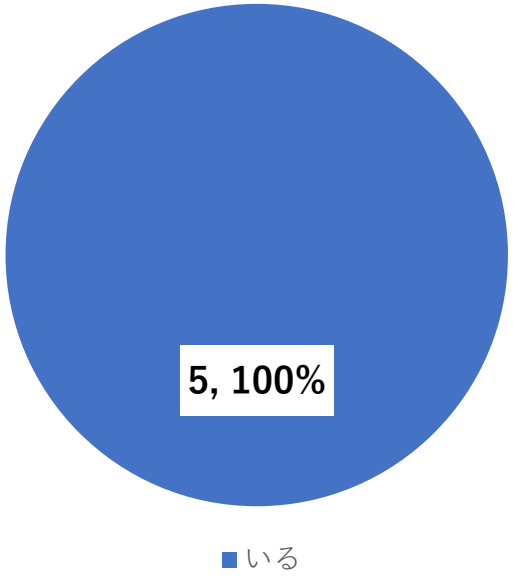
問7 年齢（N 7）



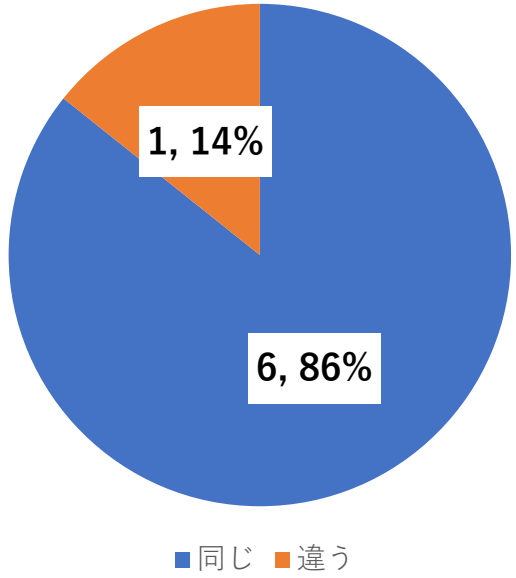
問8 性別（N 7）



問9 家族の有無（N 5）



問10 措置元（N 7）

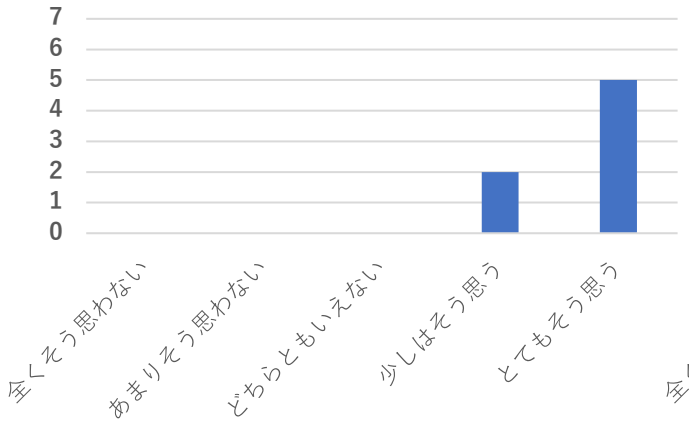


入居者7名を対象にした他記式のアンケート調査を実施したところ、「問7.年齢」は60代が2名（28.6%）、70代が5名（71.4%）であった。また、「問8.性別」については7名全員が男性であり、「問9.家族の有無」は5名（71.4%）がいる、2名（28.6%）が未回答であった。ただし、「家族がいる」と回答した5名も日常的な連絡はとれておらず、必要なサポートが受けられない方々ばかりであった。さらに「問10.措置元」について尋ねたところ、住まい（施設）と措置元が違うと回答したのは1名（14.3%）のみで、6名（85.7%）は措置元が同じであった。

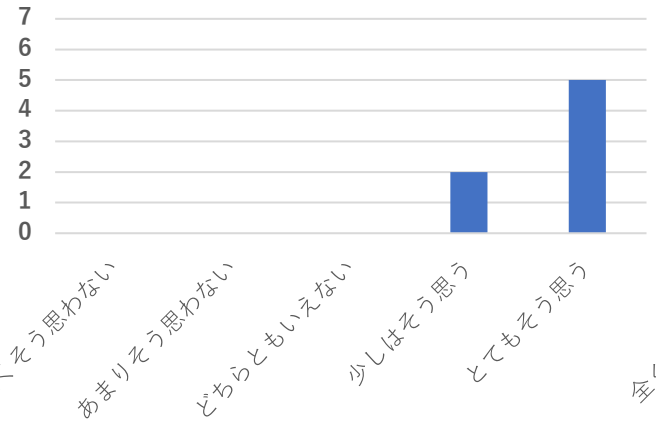
このことから入居者の年齢は比較的高く、高齢者が多い状況がうかがえた。

資料．アンケートデータの集計・分析結果（01～04アウトカム）

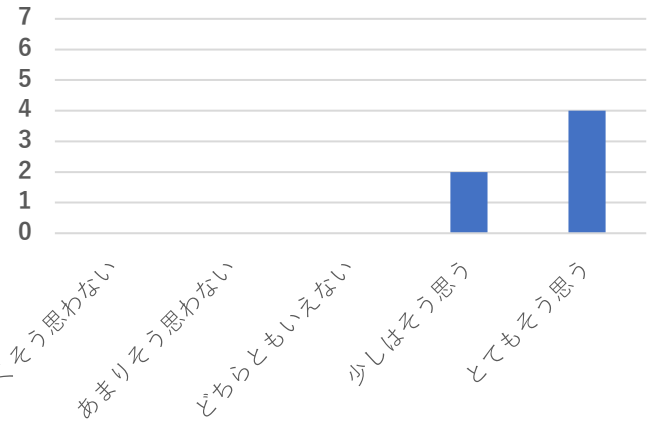
問1-2 テラッセ東勝山が良い住まいの場と思えるか（N 7）



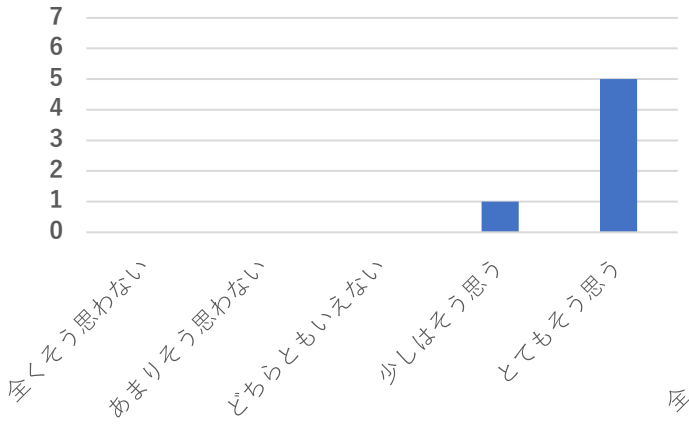
問2-1 支援者は尊重してくれるか（N 7）



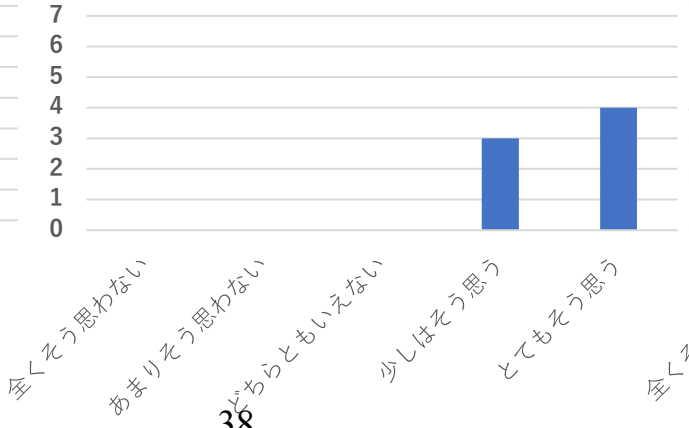
問2-2 支援者は相談のための時間をつくってくれるか（N 6）



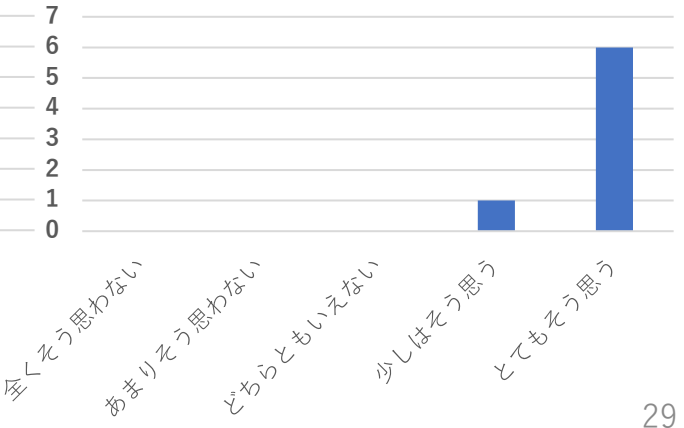
問2-3 面談（相談）後はすっきりした気持ちになるか（N 6）



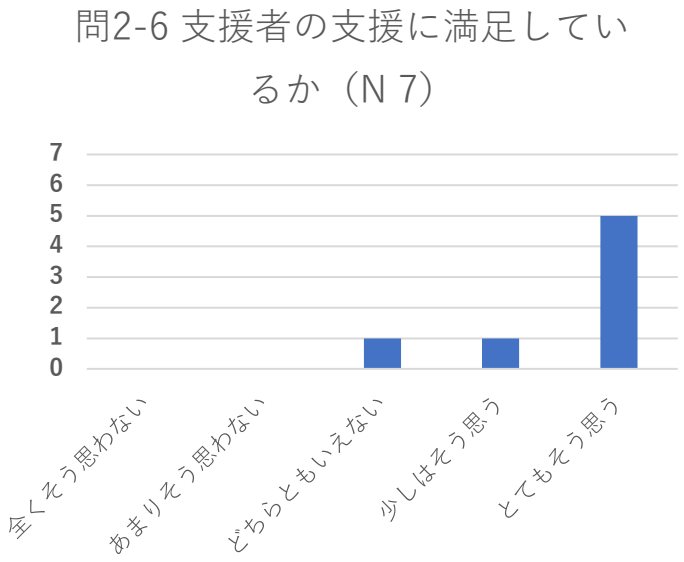
問2-4 支援者はそっとしておいてくれるか（N 7）



問2-5 支援者の支援のぶれがないか（N 7）



資料．アンケートデータの集計・分析結果（01～04アウトカム）



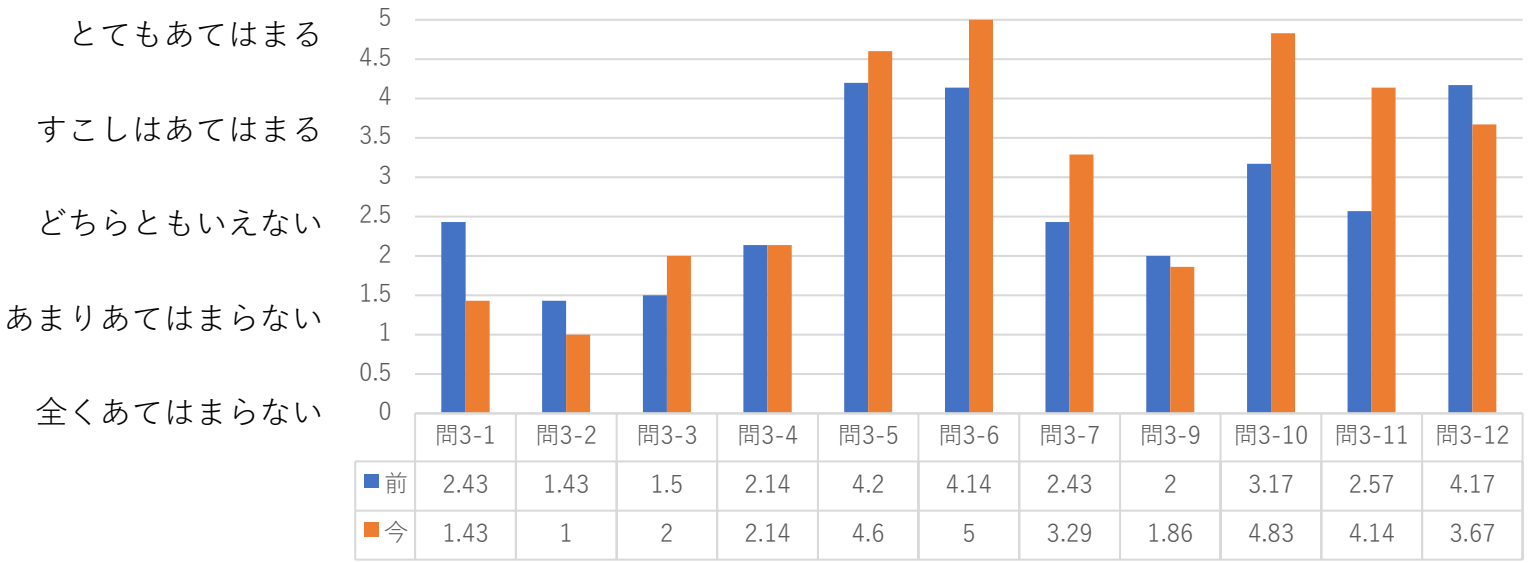
【インタビューで語られた内容】

- 大切にして貰っているかな。冗談抜きで本当に良くして貰っています。
- 職員さんがいるから大丈夫。冗談も分かってくれる人がいるから、やっぱり、結構、幹部の方もお話の出来る人がいるので相談しやすいですから。あんまり喋らない人だったらこっちが一方的に言ってもしょうがないですから。

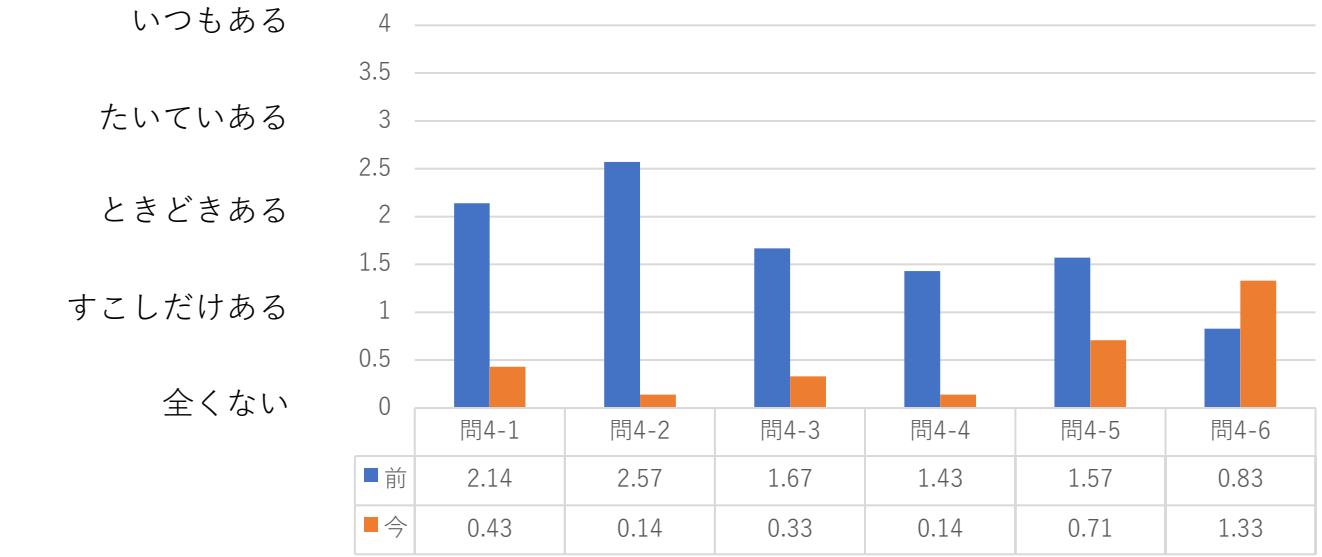
「問1-2.テラッセ東勝山が良い住まいの場と思えるか」、「そう「問2-1 支援者は尊重してくれるか」、「問2-2 支援者は相談のための時間をつくってくれるか」、「問2-3 面談（相談）後はすっきりした気持ちになるか」、「問2-4 支援者はそっとしておいてくれるか」、「問2-5 支援者の支援のぶれがないか」について、「問2-6 支援者の支援に満足しているか」の全てについて、おおむね「少しはそう思う」、「そう思う」の回答が多く肯定的な結果を得ることができた。また、入居者からは「（職員に）大切にして貰えている」、「（職員に）相談しやすい」という具体的な語りを得ることもできている。

以上のことから本事業における「（01）生活環境がしっかりした施設（住まい）がある」、「（02）支援者が入居者を尊重できるようになる」、「（03）支援者が入居者の相談にのれるようになる」、「（04）支援者の返答や対応がぶれない」のアウトカムは十分な達成度合いにあると評価した。

資料．アンケートデータの集計・分析結果（05～08アウトカム）



	問3-1	問3-2	問3-3	問3-4	問3-5	問3-6	問3-7	問3-9	問3-10	問3-11	問3-12
前	2.43	1.43	1.5	2.14	4.2	4.14	2.43	2	3.17	2.57	4.17
今	1.43	1	2	2.14	4.6	5	3.29	1.86	4.83	4.14	3.67



	問4-1	問4-2	問4-3	問4-4	問4-5	問4-6
前	2.14	2.57	1.67	1.43	1.57	0.83
今	0.43	0.14	0.33	0.14	0.71	1.33

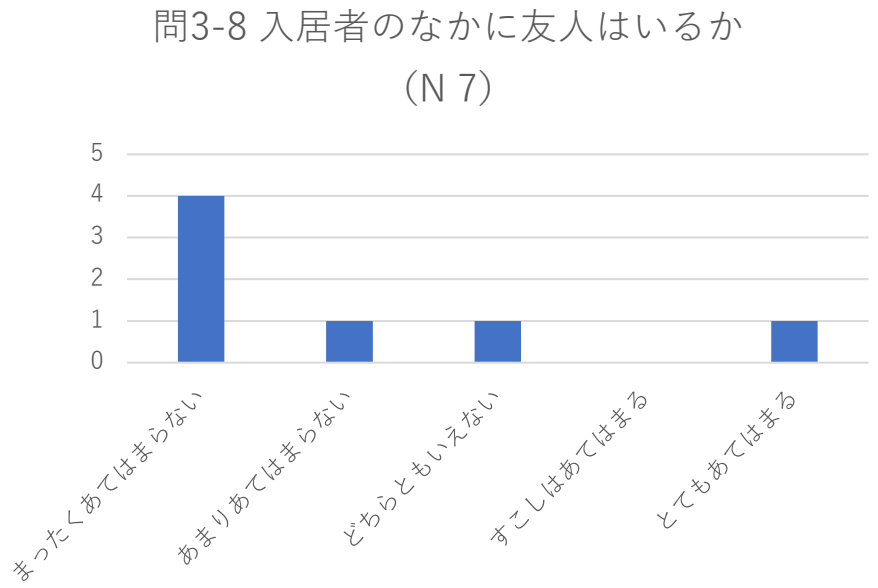


表 K6総合得点9点以上・以下の整理

	前	今
8点以下	2(33.3%)	6(85.7%)
9点以上	4(66.7%)	1(14.3%)
合計	6(100%)	7(100%)

「K6」とは国民生活基礎調査などにも使われている尺度です。うつ病や不安障害などの精神疾患リスクを測定することができ、総合得点は9点以上で高いリスクがあるとされています

資料．アンケートデータの集計・分析結果（05～08アウトカム）

【インタビューで語られた内容】

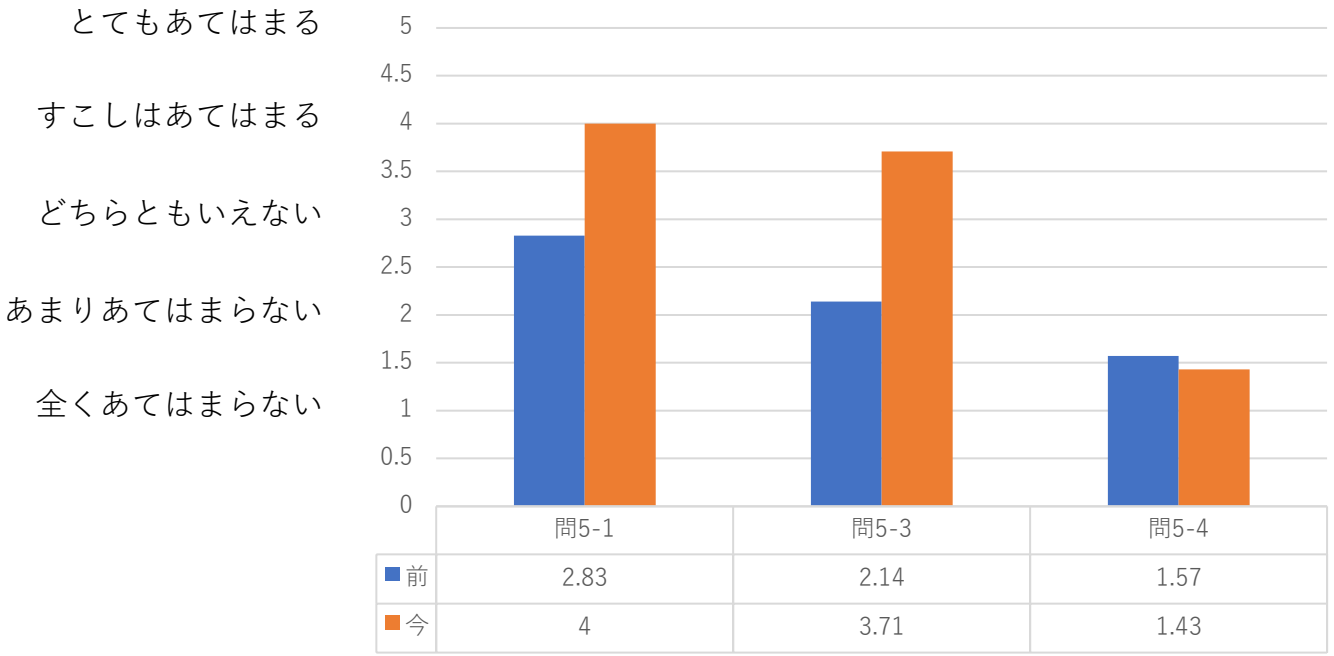
- 自分で出来ることはやるようにしてますけど。そこに喫煙所があるんですけど、職員さん含めるとなんだかんだ7人くらいいるから、放っておくと吸い殻が溜まるから、たまに洗ったり、袋に入れて、何か役に立てないかなって。人に「〇〇さん（この方の名前）、これをやって貰えますか？」って言われた訳ではないんだけど、なんかやっとこうかなって。
- なんか気の合うところがあるよね。たばこを吸う時間がたまたま一緒だったりすると、気が合うねーとかって。
- 毎日のように掃除しているんですよ。汚いの嫌いだから。布団たたんで、押し入れにいれる。ベッドの上に置きっぱなしにはしないから。
- 友達っていうのはいないですね。（入居前も）友達はいない。パッタリあって、今日は調子が良いとか悪いとか。パチンコ屋に行くから顔見知り、その程度だね。いつもあっちいったりこっちいったり。

「問3-1.他者に対して不満に思うことがある」、「問3-2.他者とトラブルになることがある」、「問3-3.トラブルを適切に解決できる」、「問3-4.ときにわがまま（自己主張）ができる」、「問3-5.自室を掃除している（生活を保っている）」、「問3-6.家賃を滞納せず、支払えている」、「問3-7.世間話をするくらいの友人はいる」、、「問3-10.食事は十分に食べれている」、「問3-11.夜間、十分に眠れている」、「問3-12.散歩など、適度に外出している」、「問3-13.通院するなど、体調に気遣っている」、「問4.K6尺度（①神経過敏に感じる、②絶望的だと感じる、③そわそわ落ち着きがなく感じる、④気分が沈んで何が起こっても気が晴れないように感じる、⑤何をするのも骨折りだと感じる、⑥自分は価値がない人間だと感じる）」については、おおむね肯定的な結果を得ることができている。

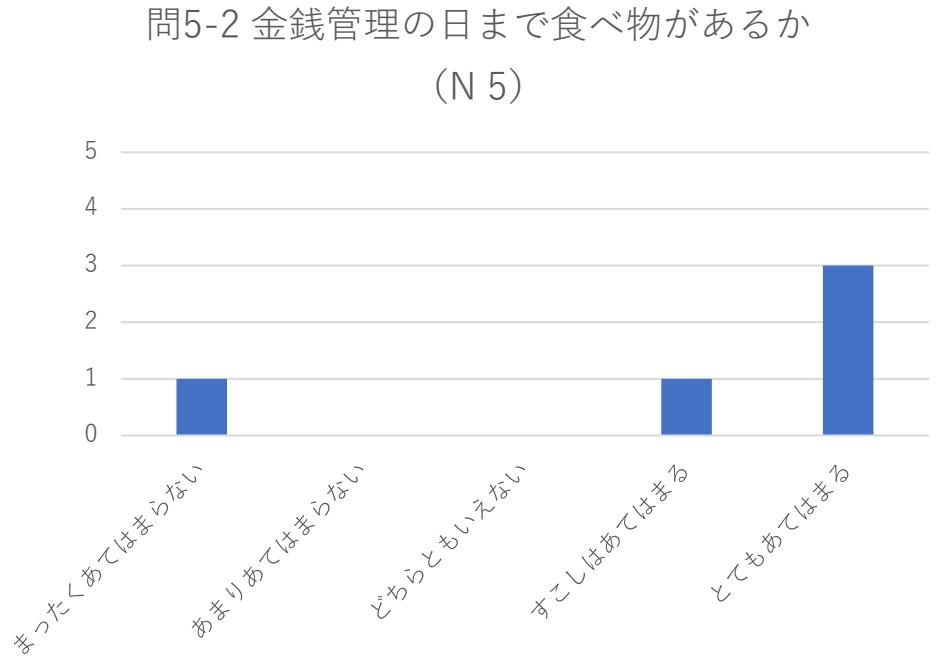
一方、「問3-8.入居者のなかに友人といえる人がいる」、「問3-9.地域に友人（知人）といえる人がいる」については、肯定的な結果を得ることができなかった。入居者から得られた語りもおおむね同様である。

以上を踏まえて、「（05）入居者が「世の中色々な人がいるな」と受け入れられる」、「（06）入居者が我が家と思って生活ができる、心から楽しいと思える時間がもてる」、「（07）入居者が健康でいられる」、「（08）入居者に友人・知人ができる」のアウトカムは一部課題はあったもののおおむね達成されたと評価した。

資料．アンケートデータの集計・分析結果（09アウトカム）



	問5-1	問5-3	問5-4
前	2.83	2.14	1.57
今	4	3.71	1.43



【インタビューで語られた内容】

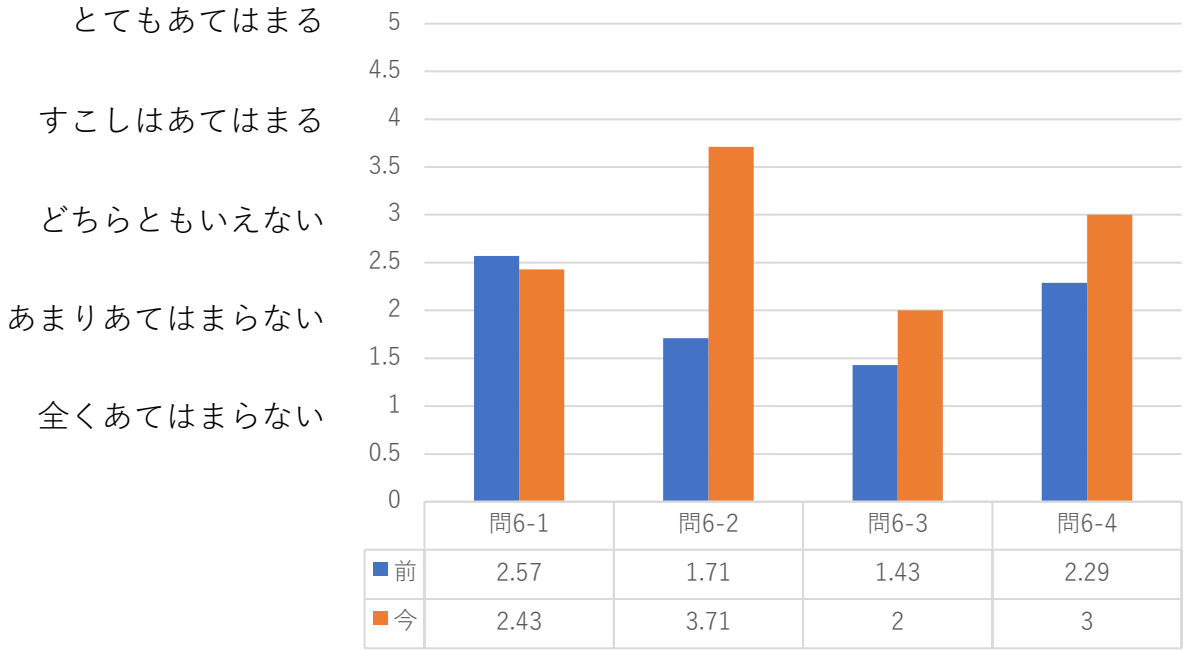
- どうなんだろう。赤字になるんだけど、要するに、その月が10万が必要なんだったとしたら、生活保護からと年金からでその月は間に合っても、年金は1ヵ月に1回だからね、その次の月にマイナスになったりして、やりくりが大変な時があるんですよ。
- （今は食べられていますかという質問に対して）大丈夫。前は金なくなってネットカフェに入れなくなってから食べられなくなったこともあった。

「問5-1.収支が赤字にならないで済んでいる」、「問5-2.金銭管理の日まで食べ物が保たれている」、「問5-3.欲しいものを買うことができている」、「問5-4.他者からお金などを借りている」の全てについて概ね肯定的な回答を得ることができている。

また、入居者からは「お金のやりくりを自身で努力していること」、「昔は十分に食べられないこともあったが、現在は十分に食べられていること」が語られた。

以上を踏まえて「（09）入居者がお金を管理できるようになる」は十分な到達度合いにあると評価した。

資料．アンケートデータの集計・分析結果（10アウトカム）



	問6-1	問6-2	問6-3	問6-4
前	2.57	1.71	1.43	2.29
今	2.43	3.71	2	3

【インタビューで語られた内容】

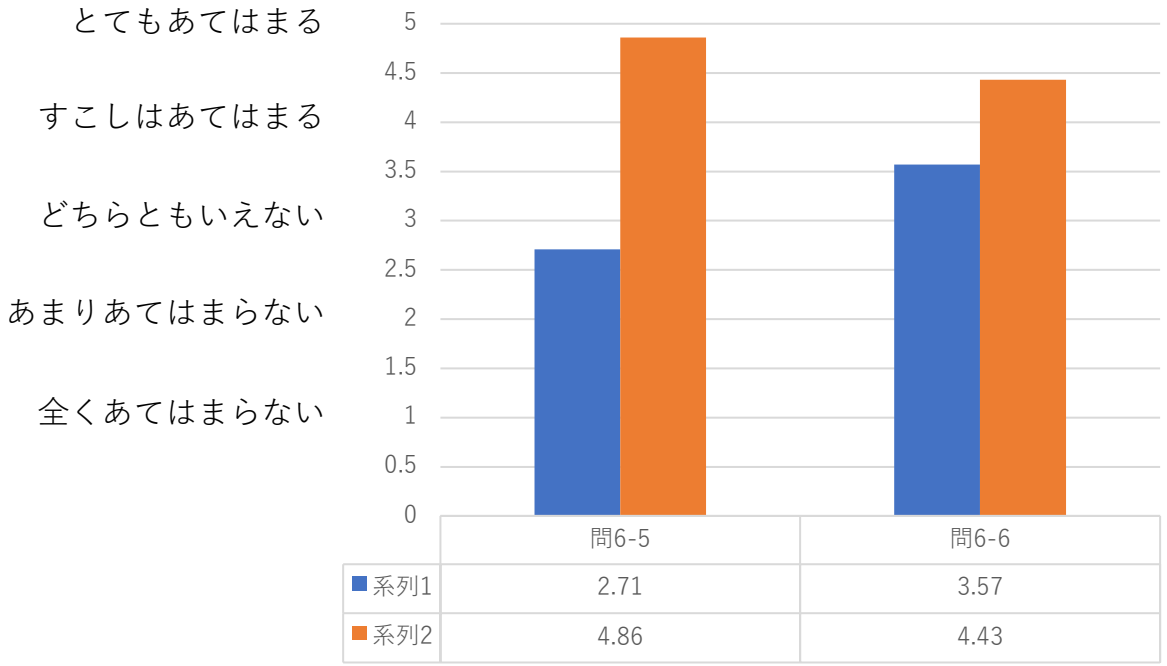
- （デイサービスについて）いっぱいいるんだ友達。
- これでいいのかなって毎日考えているよ。酒、たばこ、酒は1週間に1回だけ飲まして貰ってるんだけど。前は火曜日、今は木曜日（に飲む）。それだけ天国だね、何も考えないで。

「問6-2.楽しみがある」、「問6-3.趣味がある」、「問6-4.日課（日中すべきこと）がある」についてはいずれも肯定的な結果を得ることができている。ある入居者からは「デイサービスに友達がたくさんいること」が語られ、また別の入居者からは「週に1回の飲酒を楽しみにしていること」が語られた（以前は多量に飲酒をしていたが、現在は職員と話し合い、週に1度の飲酒にしているとのこと）。

ただ、「問6-1.やってみたいことがある」については前後で良好な結果を得ることができず、なかには入所前の方が日中すべきことはあったと語った入居者もいた。

以上を踏まえて「（10）入居者が生きがいをもって生活できるようになる」は一定程度の達成していると評価した。

資料. アンケートデータの集計・分析結果（中期・長期アウトカム）



【インタビューで語れられた内容】

- （孤独を感じることはありますかという質問に対して）いや、ない。1人でいた方がいいなって。
- （孤独を感じることはありますかとう質問に対して）少しはありますね。ここに入居して来年の1月でまもなく1年なんですよ。2人ほど遠出（亡くなった）したもんだから、自分自身が今度かなって、ちょっと不安は感じますね。体があんまり良くないし、内臓も良くないし、そういう不安は感じますね。だからその、一緒にたばこを吸ったりする人と、体の「あんた、体どうなの？」っていうような話はするけれども。
- （孤独を感じることはありますかという質問に対して）前はほら、孤独っていうか、そういうとき、今日何しようかなとか、外に出れば散歩してグルグル回ってたからあんまり考えなくて良いから。今はぽつんといるから、体だけ丈夫にならないかなってだけだね。思っているのは。

「問6-5.安心して暮らせている」、「問6-6.生きていて良かったと思える」についていずれも肯定的な結果を得ることができた。このようにアンケート調査の質問に対する全体的な傾向をみれば、入所前に比べて安心した暮らしを得ることができ、生きてて良かったと感じることが出来ている様子がうかがえる。こうした成果を得られているのもアウトカム（01）～（10）に規定した短期的（直接的）なアウトカムが十分な達成度合いにあるからだと考えられる。

ただ、インタビュー調査から得られた語りのなかには「今は孤独を感じることがある」や「自身の健康が心配である」といったものもみられた（なかには、入所前よりも孤独を感じることがあるという語りもある）。

以上を踏まえて、本事業における「（中期（中間）アウトカム）入所者が安心して暮らし続けられる」及び「（長期（最終）アウトカム）入所者が生きてて良かったと思える」は十分な達成度合いにあると評価した。